

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red
Cross Kyushu International College of
Nursing

韓国人学習者の敬意表現に関する認識について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 韓日言語文化研究会 公開日: 2015-10-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 因, 京子, 金, 瑞賢 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/428

『韓日言語文化研究』第5集

韓国人学習者の敬意表現に関する 認識について

九州大学留学生センター/比較社会文化学府 因京子
九州大学大学院比較社会文化学府博士後期過程 金瑞賢

1. はじめに：韓国人学習者の敬意表現習得上の問題点

本稿は、韓国語を母語とする日本語学習者（以下、便宜的に「韓国人学習者」と呼ぶ）に対する日本語の敬意表現の効果的な教授法を開発することを最終的な目標として、日本語の敬意表現について韓国人学習者がどのような認識を持っているかを調査・分析するものである。

日本語は「敬語」が難しい、とよく言われるが、これが実情の一部を示すものでしかないことは既に指摘するまでもない。こうした言辞における「敬語」という語が指すのは、実は「相手への敬意や配慮や好意の表現」ということなのであろうが、「敬意」「配慮」「好意」などは、内容選択や間接性の度合いといった他の言語にも広範に見られる手段はもとより、狭い意味での「敬語」の使用、また、さらに他の種々の言語形式の使用によって複合的に表現されるものである。狭い意味での「敬語」ということに限るなら、「お～になる」「お～する」という構造や尊敬動詞・謙讓動詞などの形式、及び、主格または対格（及び与格）が社会的上位者である場合にそれぞれの形式を引き起こすといった構造的原理（Harada1976な

ど)を理解することは、それほど困難なことではないのであるが、「敬語」が多用されるような改まった場面は、人間関係も緊張を強いられるものである可能性が高く内容に配慮が必要であり、儀式的な定型表現など難易度の高い語彙や慣用句も多く用いられるなど、基本的に困難度の高い場面であると考えられる。体系的敬語形式が存在しない言語を母語とする日本語学習者にとっては、そうした困難度の高い場面で、発話に際して社会的身分や立場を常に念頭に置き述語形式などを体系的に変化させていくには、かなりの意図的努力が必要となるであろう。

これに対し、韓国人学習者は、母語にも日本語と類似した体系的な敬語形式が存在するため社会的身分や立場を前提として言語形式を選択することには抵抗がない。また、共通する語彙も多数あり、他の母語を持つ学習者よりも圧倒的に優位にあるといえる。しかしながら、韓国語人学習者が善意の意図を持って産出した日本語発話の中に、日本語母語話者に威圧感を感じさせたり抵抗を覚えさせたりするものが多数出現するのは事実である(守屋2000、因2002aなど)。このような問題は、敬語の形式や構造の習得の問題というよりは、より広い意味での敬意表現の理解、即ち、敬意や配慮や好意を表現するための手段や内容についての前提が異なっていることへの理解が不十分であることに起因するのではないかと推測される。韓国と日本では言語的にも文化的にも社会的にも共通する部分が大いにはあるが、言語形式の操作や表現内容の選択の裏にある、表現手段の範囲についての認識や価値観が全く同じであるとは考えにくい。この違いを把握しなければ、日本語によって韓国人学習者が十分にその意図を表現できるようになることは難しいであろう。また、定型表現などに関しては、類似している言語を学ぶときにこそ起こりがちな過剰般化の問題に留意する必要があるだろう。即ち、韓国人学習者に対する日本語教育では、狭い意味での「敬語」を話者の丁寧な態度の表示に関わる主要な手段であるかのように導

入するのではなく、「敬意」「配慮」「好意」の表現に関わる要因や手段を全体的に把握し、韓国語との違いや韓国人学習者の理解が及びにくいと考えられる点に重点をおいて明示的な説明を行うと共に、母語から安易に類推することの危険性にも注意を向けるよう促すことが重要であると考えられる。本稿では、「敬意」「配慮」「好意」など、相手に対する話者の丁寧な態度を示すための表現手段を総称して「敬意表現」と呼ぶことにする。

本稿は、「日本語母語話者にとって丁寧さの点で問題があると感じられる表現を含む手紙文の訂正」という作業を通して、韓国人学習者が敬意表現に関する問題点をどの程度認識するか、また、どのような問題であると認識するかを分析し、韓国人にとって理解が及びにくい点は何であるかを同定することを目的とする。まず、日本語の丁寧さの実現に関わる要因のいくつかを学習者によく見られる不適切例をあげながら簡略にまとめる。それから調査の概要と結果を報告し、最後に教授法開発への展望と今後の課題を述べる。

2. 日本語における敬意表現

丁寧さ、あるいは「ポライトネス」に関する代表的な研究としては、「フェイス」という概念を中心に個人の領域への侵犯との関わりで丁寧さを論じたBrown & Levinson(1987)がある。これに対して、日本語など社会的位置を前提とした体系的敬語を有する言語を研究する立場からは、こうした言語における丁寧さは個人の領域の尊重よりもむしろ所属グループにおける相対的位置を認識し、グループに受け入れられるようにするという点が重要であるという指摘がなされてきた (Matsumoto 1988/1989, Ide 1989/1992, 井出他1986, 松村・因2000)。相対的位置の認識の表現としての「わきまえ」の表示、また、その違いを前提として相手に好意を持っている

ことを示す種々のストラテジー、及び、相手に負担をかけたり当惑させたりしないように表現内容を調整する配慮など、種々の要素が総合的に機能して丁寧な態度が表わされるのである。したがって、不適切な敬意表現が生ずるには、言語表現の規則、表現内容の選択、表現の慣習など、種々の要因が関わっていると考えられる。

丁寧さの表示に関わる要因として、表現の対象との相対的上下関係識しそれを表示することが重要なものであることは言うまでもない。この表示には、「おVになる」「おVする」及び、「いらっしゃる・おっしゃる」などの尊敬語と「いたす・うかがう」などの謙讓語が用いられる。しかしながら、「上下」というのは日本語においては相対的なもので、実際の社会的身分とは関わりなく「上」または「同等」または「下」と扱うべき場合が多々ある。例えば、「ウチ」の人物は「ソト」の人物と対比した場合には基本的に話者である自分と同等の存在として扱わなければならない。下の(1) - (2)のように「ウチ」の者を上位者として扱った表現は受容されない。これは、「絶対敬語」を持つ韓国人学習者にとっては、誤解を生じやすい点である。(*は、受容されない発話であること、 ?は、多少の揺れはあるが受容が難しいと感じられる発話であることを示す。 →は、問題点を訂正した発話である。)

(1) 父も母も大変喜んでいらっしやいました。(→父も母も大変喜んでおりました。)

(2) (顧客に対して) 社長はもうお帰りになりました。(→社長はもう帰りました。)

上下関係の表示と並んで重要なのは、相手から恩恵を受けたと看做すべき行為を表現する際にそれを明示することである。例えば、(3) - (4) のような発話が受容されないのは、「先生」が社会的上位者であることは表示しているものの、その上位者との関わりから話者が受けた筈の恩恵を表示していないからである(因1997)。

(3) 先生の論文は全てお読みしました。(→先生の論文は全て読

ませて頂きました。)

(4) 先生の車にお乗りしました。(→先生の車に乗せて頂きました。)

日本語では、グループへの帰属が重要であり、そのためには「お蔭様」、即ち、自分が相手の好意の恩恵に与っているという認識を表示することが大切なのである。逆に?のように自分のほうが相手に対して恩恵を施したことを表示するのは、特に相手が目上の場合、相手を相対的に上に置くという原則と衝突することになるため、受容されない。

(5) 先生の帰りの飛行機の予約をして差し上げました。(→先生の帰りの飛行機の予約を致しました。)

具体的な表現以前の問題として、内容の問題も重要である。例えば自分が何かを依頼する立場であるのに相手の都合に配慮のない発話は、いくら尊敬語などを正しく使用しても丁寧な態度を感じさせることは難しいであろう。

? (6) 私は大学院に入って先生に指導していただきたいので、一度会ってお話を聞かせてください。私は来週の月、木、金の、なるべく4時以降がいいです。

また、表現目的に合った慣習の遵守も、丁寧さを実現する上では無視できない。日本語の場合は、「時候の挨拶」や「感謝」など、定型的表現を使うべきところではそれを使うことが期待されており、形もあまり変えずに用いるが、学習者は自分なりの組み合わせを考案したり明示的言辞の使用を避けようとしたりする傾向がある(因2002a)。また、母語で用いられる表現を直訳してそのまま用いることも少なくなく、こうしたことが、丁寧さや改まり度の実現の障害となることがある。

? (7) 梅雨の季節となってしまった今日この頃、ますますお元気だとお喜びします。(→梅雨の季節となりました。益々御清栄のこととお喜び申し上げます。)

? (8) お元気でお過ごしのことと思います。先日送ってくださったみかんは、おいしく頂きました。それで、そのお礼としててもつまらないものですが、韓国のお茶を送ってさしあげます。→お元気でお過ごしのことと思います。先日はみかんを送ってくださって有難うございました。おいしく頂きました。それで、お礼と言うにはあまりにもささやかですが、韓国のお茶をお送りします。)

? (9) 真心で感謝いたします。

以上に述べたほかにも丁寧さの表現には種々の要因が関わっており、手段も種々あるが、学習の現場では「敬語の使用」という一つの手段が強調され、他の要因や手段の意識が十分深められないことが多い。適切な表現を行うためには、適切さについての認識があること、逆に言えば、不適切な表現が不適切であることが認識でき、更に、何によってその問題が引き起こされたかを認識できることが前提となる。そこで、異なる要因に関わる不適切な表現を、韓国人学習者がどのように認識するかについての調査を行った。

3. 調査の概要

3.1. 調査の素材

丁寧さに関わる不適切性についての韓国人学習者の認識を調べるために、不適切な点を含むテキストに判断・訂正タスクによる調査を行った。素材には、「手紙文」を用いた。理由は以下の4点である。

・発話全体を特定の間人関係を前提とした一定の状況のもとで行うことができる。

・音声や身振りなど他の要素の影響を排除することができる。

・丁寧表現使用の必要性が高い。

・被験者が考える時間を取ることができ、時間的余裕の無さから生ずる一時的な過誤の要素を排して学習者のより意識的な判断の結

果が現れると期待される。

手紙の内容は、学習者にとって身近に感じられ、状況を理解しやすいと思われる、

- 1) 「世話になっている人へ物を贈るときの手紙」
- 2) 「ホームステイを依頼する手紙」
- 3) 「ホームステイ先へお礼を述べる手紙」

の3種類を用いた。状況の理解が正確に行われるよう、これらの手紙が書かれた背景記述は母語である韓国語で行った。語彙は日常会話で一般に用いられるものを使用し、漢字にはルビをふった。(資料2参照)

3.2. 対象者と実施方法

調査対象は、日本語を専攻する中級以上の韓国人大学生で、日本人大学生を対照群とした。具体的には、釜山大学と慶州大学の日本語専攻で学習時間がおよそ600時間から900時間程度の3・4年生54人、対照群は九州大学の学部1年生から4年生40人である。それぞれ2003年6月と11月に調査した。

韓国人学習者への調査は、大学での日本語の授業の時間の一部を割いて調査者である筆者または担当教官の立ち会いの上、行った。時間の制限は特にしていないが、大体30分程度で終了した。対照群には、九州大学のキャンパス内で個別に配布し、2日以内に返却してもらった。

3.3. 課題の形式と項目

認識を調べるためのタスクとしては、発話技術の巧拙による影響をできるだけ排するために、「判断」と「訂正」作業を選択した。

不適切な表現を含んだ手紙文を提示し、1) 違和感があると思われる個所や間違いであると思われる個所に下線を引き、2) 適切な日本語表現を思いつくならばそれを書き、3) 不適切である理由が

分かるのであれば母語でそれを書くよう、求めた。

素材文には、敬意表現が不適切な例に加えて、語彙や格助詞や用言の活用など構造的な誤用を若干含めた。分析対象は前者のみであるが、こうした作業に不慣れな被験者であっても作業にとりかかりやすくするための措置である。

項目は以下の4種で、各5例ずつ提示した。

i) 上下関係にかかわる不適切な表現

(前節の例文(1)(2)のような例、以下「上下関係」と略記)

ii) 恩恵関係にかかわる不適切な表現

(前節の例文(3)(4)(5)のような例、以下「恩恵関係」と略記)

iii) 内容にかかわる不適切な表現

(前節の例文(6)のような例、以下「内容」と略記)

iv) 慣用句・定型表現における不適切な表現

(前節の例文(7)(8)(9)のような例、以下「慣用句・定型表現」と略記)

調査に用いたこれらの例は、因京子の『留学生のためのちょっと気の張る手紙の書き方』(2002a)、及びこの教材を用いた授業の中で採取された例を基にしている。

具体例は以下に示す。(資料1参照)

3.3.1. 「上下関係」

「上下関係」

- ・ 自分や身内に尊敬語を使用している ①②
- ・ 尊敬すべき相手に尊敬語を使用していない ③④⑤

例文

① * 親切にしてくれて、まるで我が家にいらっしゃるような気分

でした。[手紙3の (2) 段落のBに提示している 以下、便宜上 [3 (2) B]のように記す。]

②父も母もいただくのがもったいないとおっしゃいました。

[1 (3) A]

③(目上の相手が) 親切にしてくれて、まるで我が家にいるような気分でした。[3 (2) A]

④(期末テストが終わったら夏休みなので、) 今度は韓国に来ませんか。[3 (3) A]

⑤家族の皆様どうぞよろしくお伝えください。[3 (4) A]

3.3.2. 「恩恵関係」

「恩恵関係」

- ・ 目上の人から恩恵を受け、恩恵と上下の関係が同時に存在する場合、恩恵を表示していない ⑥⑦
- ・ 自分から目上の人への恩恵を表示している ⑧
- ・ 相手からの恩恵を表示しない ⑨
- ・ 自分の行動が相手に結びついていない場合に謙讓表現を使用することによって「恩恵」という解釈を生じさせている ⑩

例文

⑥(相手が書いて送ってくれた論文を) お読みいたしました。[1 (2) B]

⑦(私が送ったマンガを相手が) 暇なときにお読みになれば (私は) 光栄です [3 (5) C]

⑧一緒に撮った写真と韓国語版「キャンディ・キャンディ」を 送ってあげます。[3 (5) A]

⑨(相手が私に) 送った論文は全部読ませていただきました。[1 (2) A]

⑩ (相手の所有物ではないものについて)

前におっしゃった小説をお読みいたしました。[3 (5) B]

3.3.3. 「内容」

「内容」

- ・ 感謝の定型的表現を直接言わず、具体的描写を行う ⑪⑫
- ・ 内容と形式のかしこまり度が合わない ⑬
- ・ 自分の側の条件だけを述べ、相手の都合に対する配慮が欠如している ⑭⑮

例文

⑪ (鈴木さんが作ってくださった日本の家庭料理が本当においしかったので、)

今も食べたいのをやっと我慢しております。[3 (2) C]

⑫ (ホームステイを依頼し、面識のない相手から承諾を得て)

運良く今度はホームステイの家庭がありまして、本当に嬉しく思います。[2 (3)]

⑬ (仲のいい先輩への個人的な手紙に)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。[1 (1)]

⑭ (ホームステイを依頼し面識のない相手から承諾を得て、日程などの詳しいことを相談する際)

私は7月から夏休みなので、7月の10日から17日までお世話になりたいと思います。その他の日は、MTやクラブ活動がありまして無理です。[2 (4)]

⑮ (ホームステイを依頼し面識のない相手から承諾を得て、日程などの詳しいことを相談する際)

6月21日から7月5日までは調査旅行を計画しておりますので、6月20日までに届くようお願いいたします。[2 (5)]

3.3.4. 「慣用句・定型表現」

- 「慣用句・定型表現」
・韓国語直訳の定型表現
・定型表現を不適切に変形

例文

- ⑯ * 心より感謝申し上げます。 [2 (1) A]
⑰ * 真心で感謝いたします。 [3 (2) D]
⑱ * 手伝いになりました。 [1 (2) C]
⑲ * では、この辺で減らします。 [3 (4) B]
⑳ * 若葉の候、益々お元気なのは何よりだとお喜びします。 [3 (1)]

4. 結果と考察

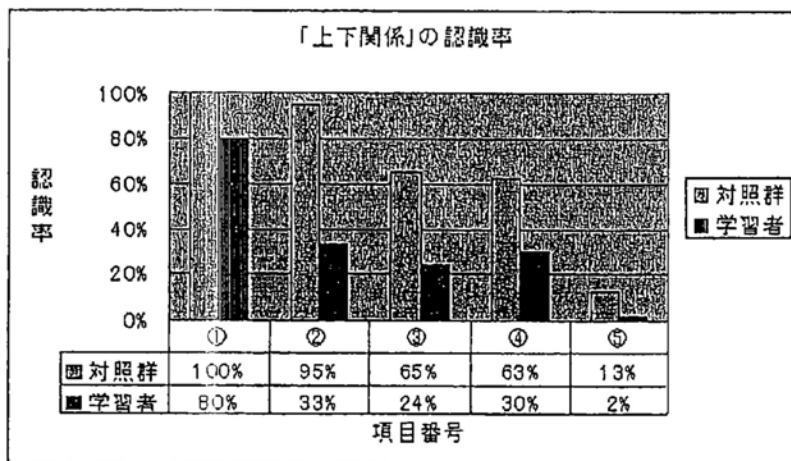
回答の分類には、因・市丸 (1994) を参考にした。因らは1) 学習者が不適切であると認識し、訂正にも成功している個所、2) 不適切であると認識したが正しく修正することができなかった個所、3) 不適切とは言えない個所を訂正して向上がみられたかまたは変化のなかった個所、4) 誤用とは言えない個所を訂正してかえって改悪してしまった個所、5) 見落とした看過個所の5つに分けている。本調査では、この分類を簡略化して1)と2)を「認識成功」、3)と4)と5)を「認識不成功」と分類し、回答のうちの認識成功の割合を認識率とよぶ。

$$\text{認識率} = \frac{\text{認識成功数} \times 100}{\text{回答数}}$$

この2分類を行うための判定には評価者によるゆれは生じないと考えたが、回答の処理は一応3名で行った。判定の不一致は見られなかった。

以下、例文ごとの認識率とそれらの属す項目（分野）全体の認識率を順に示す。

4.1. 「上下関係」



<グラフ1>

上下関係に関しては、自分や身内の行動に敬語を使ってしまったという不適切例（①②）と、敬語を使うべき相手に使わなかった（③④⑤）例を提示した。

①は自分の行動に、②は両親の行動に敬語を使っている例である。対照群は認識率が①100%と②95%で極めて高く、①も②も全く許容していない。一方、学習者は①の認識率は80%とかなり高いが、②は33%で①の認識率の半分にも満たない。これは、絶対敬語を持つ韓国語と相対敬語を持つ日本語の違いによる結果だと考えられる。絶対敬語の韓国語では②は正しい表現であり、身内に関することでも尊敬語を使った方が「育ちがいい」ということになる。

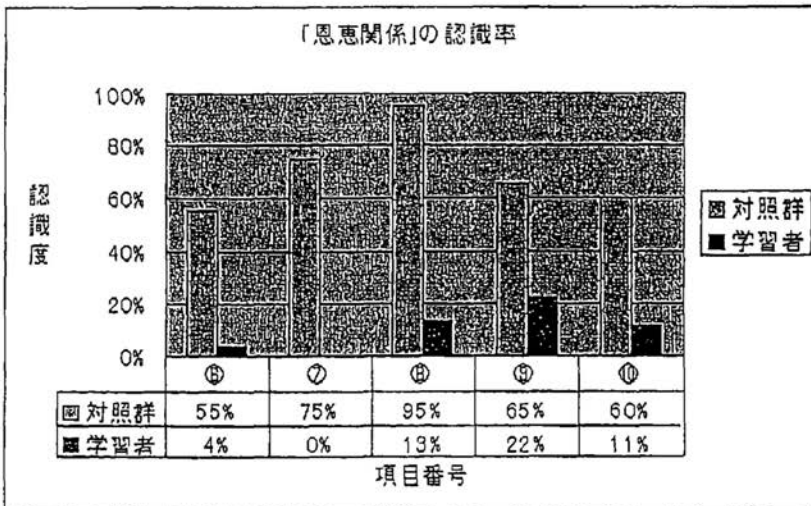
後者の③④は相手の行動を敬語で表さずに普通体の動詞を使用した例、⑤は相手に関する「お・ご」を使用しなかった例である。③④に関しては、対照群は60%以上の認識率で、学習者は24%と30%の認識率である。しかし⑤に関しては、対照群も13%、学習者ではわずか2%である。学習者の認識率は大変低い。対照群の認識率をみると敬意を動詞に反映させることにくらべて敬意の接頭語の使用は、必ずしも義務的ではないことがうかがえる。従って、尊敬の接頭語不使用は、重大な問題とは言えないと考えられる。

「上下関係」に関しては以下のようにまとめられる。

ア. 対照群は自分や身内のことに対して敬語を使用することを許容しない。

イ. 学習者は自分に対して敬語を使用することは不適切と認識しているが、身内に対する敬語の使用が不適切であることに関しては認識が低い。

4.2. 「恩恵関係」



<グラフ2>

⑥と⑦は、目上の人から恩恵を受け、恩恵と上下の関係が同時に存在するが、上下関係だけを表示して恩恵関係を表示しなかった例である。対照群は認識率55%と75%で少なくとも半分以上の人が抵抗を示している。しかし、学習者は認識率がわずか4%と0%で、このような不適切性に関しては極めて認識が低いことが分かる。

次に、⑧は自分から目上の人への行為に「てあげる」を使用し恩恵を表示している例、⑨は相手からの恩恵に「てくれる」系を使用しなかった例である。対照群は、⑧には95%、⑨には65%の認識率を示した。一方学習者は、⑨が22%、⑧は13%にとどまった。韓国語の授受動詞は動作が誰から誰に対して行われたかの方向性を示す機能を主に示すもので、日本語の授受動詞のように、「恩恵を表示し、それによって感謝の意を示す」というような機能はない。「さし上げる・いただく」を「드리다・주시다」と単純に同一視していることに一つの原因があるように思われる。学習者の行った修正例には、⑧の「てあげる」を「て差し上げる」と上下関係から丁寧のレベルを高めようとしたものが修正例8のうち2例、⑨の「(相手が自分に役立つものを)送った」を「お送りになった」に修正したのも修正例14のうち3例あり、上下関係に着目しやすい傾向がうかがわれる。

最後の⑩は、自分の行動が相手に結びついていない場合に謙譲表現を使用することによって「恩恵」という解釈を不適切に生じさせている例である。対照群は60%の認識率であるが、学習者は11%という低い率である。修正例には「お読みします」を「お読みいたします」に修正したのも10例のうち2例があり、やはり立場の上下に着目していることが分かる。

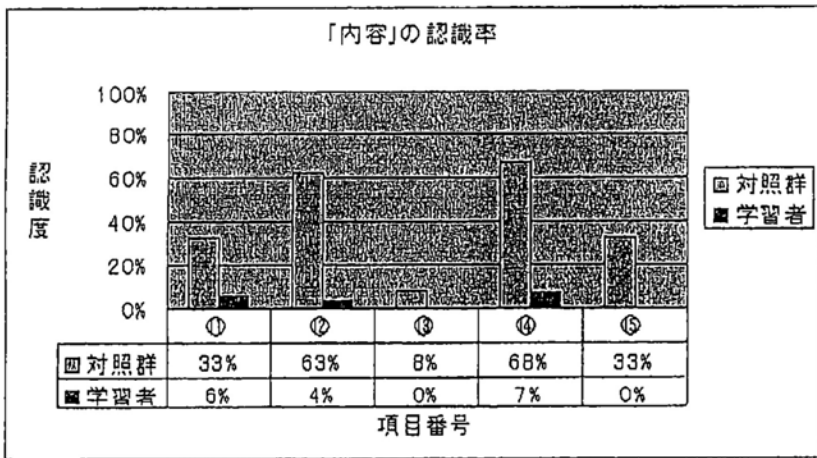
「恩恵関係」に関しては以下のようにまとめられる。

ア. 対照群は、相手からの恩恵を表示しないことや自分の恩恵を表

示することには強い抵抗がある。特に、目上の相手に対して自分の恩恵を表示することは許容しない。

イ. 学習者は、目上の自分に対する行動について、上下関係のみに着目し恩恵関係を見落とす傾向が強い。目上に対する自分の恩恵を表示することにも抵抗がなく、上下関係に基づく丁寧度の調整に着目している。

4.3. 「内容」



<グラフ 3>

①と②は、感謝の表現に問題がある例である。①は誇張的で誠意が疑われる恐れのある例、②は自分の幸運を喜ぶ描写のみによって感謝の気持ちを表現しようとして、明示的な御礼のことは言わなかった例である。对照群は①33%、②63%の認識率で、①に関しては「はっきり言えないが気になる」、②に関しては「失礼である」というコメントがつけられた回答があった。

次に③は、手紙文の定型表現が内容と形式のかしこまり度が合わない例である。これは、学習者は認識率0%で、对照群もわずか8%の認識率である。对照群の認識率が低いのは、卒業前の大学生

で社会経験が乏しくこのような手紙を書いた経験が少ないためかと思われる。

④⑤は、自分の側の条件だけを述べ、相手の都合に対する配慮が欠如している例である。④は特に「無理です」という強い断定を含んでおり、⑤は「お願いします」の一言で自分の条件を押しつけている。対照群は、④は68%、⑤には33%が抵抗を示しており、「押し付けがましい」「自分の都合ばかり述べている」というコメントがあった。これに対し学習者は、④はわずか7%、⑤に関しては0%であった。④に関しては「頼まれるほうではなく、頼む方なのに「無理」は違和感あるのではないか」という意見があり、全般的な行動より語彙に着目していることが分かる。また「です」と「あります」と言う表現を和らげるために「でございます」、「でございます」に修正するなど、用言の丁寧さに重点をおいている。⑤の認識率が0%と低いのは、自分の都合ばかり述べていても「お願いします」のような丁寧な言葉使いをしているため許容されると考えたのかもしれない。

「内容」に関しては以下のようにまとめられる。

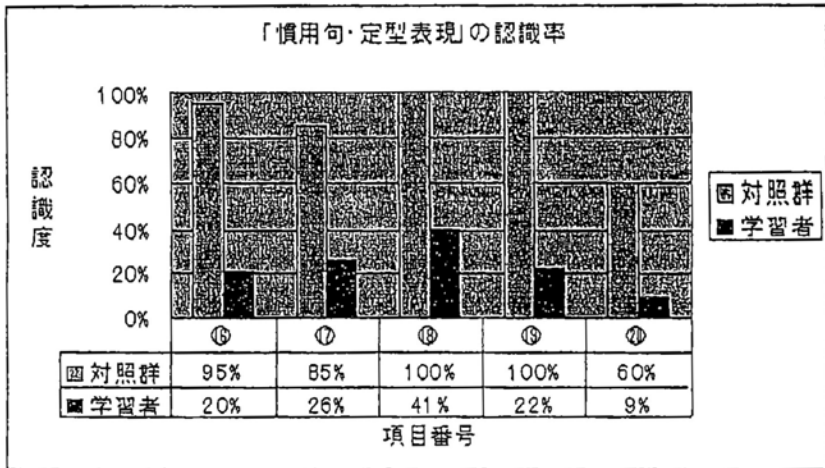
ア. 対照群は、感謝の定型的表現を直接言わず、具体的描写を行ったり、自分の側の条件だけを述べ、相手の都合に対する配慮が欠如していたりするなど態度や行動の不適切には、文末表現や語彙を丁寧にしていても、「失礼である」「おしつけがましい」と、不快感を示している。

イ. 慣用に支えられた儀礼的な表現については、対照群もまだ習熟していない。

ウ. 学習者は、相手へ配慮を示さないことが不適切であるということへの認識がほとんどない。

エ. 学習者は、行動や態度など全体的内容ではなく語彙や用言の形式など局所的形態の問題としてとらえている。

4. 4. 「慣用句・定型表現」



<グラフ 4 >

慣用句・定型表現に関しては、慣用句と定型表現を直訳してしまった例(⑯⑰⑱⑲)と手紙文における日本語の定型表現を部分的に変形させた例(⑳)を提示した。

前者に関しては、对照群は、85%、95%、100%、100%の認識率で、「誤っていて気になる」などコメントも多かった。对照群はこうした誤りを許容しないことが分かる。一方学習者は、4例のうち3例が20%台、1例が41%の認識率で、高い認識率とはいえないが、認識成功者の半分以上は間違っている点をきちんと理解しており、修正も正しく行っていた。

⑳の慣用句の部分的変型に対する对照群の認識率は他の例に比べるとやや低いが、それでも60%が間違いを指摘している。他の認識率より低いのは、对照群が社会経験の乏しい学生でこのような手紙を書いた経験がまだ少ないからかもしれない。学習者の認識率は9%にとどまった。

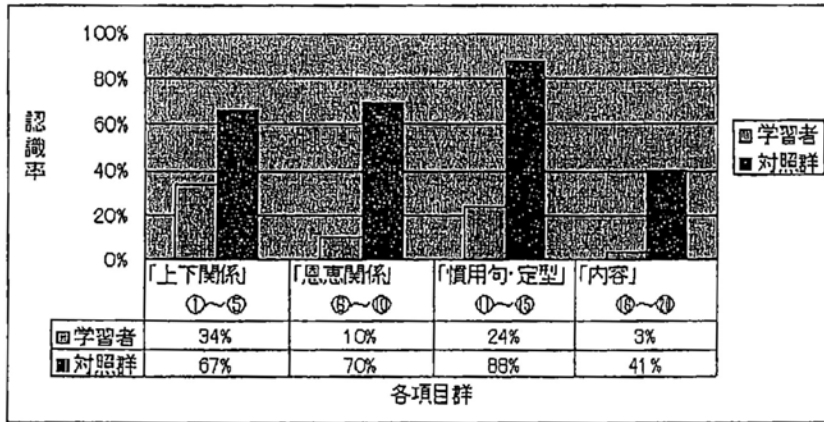
「慣用句・定型表現」に関しては以下のことが明らかになった。

ア. 対照群は、韓国語を直訳してしまった例の不適切さに対する認識率が非常に高く、このような間違いに関しては許容しにくい。定型表現を不適切に変形した例には、半分以上の人が違和感を表している。

イ. 学習者は定型表現の直訳の不適切性に関しては、間違いを指摘し、正しく修正を行った者が少数ながら存在し、「直訳」の危険性を認識していることがうかがわれる。

4.5. 調査結果のまとめ

4種類の調査項目を項目別にまとめ<グラフ5>に示す。



<グラフ5>

対照群と学習者の不適切性の認識率には差があり、認識率の高い順から並べると以下のようなものである。

対照群：「慣用句・定型表現」>「恩恵関係」>「上下関係」>「内容」

学習者：「上下関係」>「慣用句・定型表現」>「恩恵関係」>「内容」

認識率から考えると、対照群は「慣用句・定型表現」が一番高い。「上下関係」と「恩恵関係」の認識率にはさほど差がない。

「内容」が一番低いながらも41%が違和感を持っている。一方学習者は、「上下関係」への認識が一番高く、次に「慣用句・定型表現」が続く。「恩恵関係」にはわずか10%、また、「内容」に関しては3%の認識率で、殆ど認識を持っていないと考えられる。

対照群が3)への回答として書いたコメントを見ると、「慣用句・定型表現」と「上下関係」に関しては「間違い」または「尊敬語と謙譲語の理解不足」というような解釈をしており、「失礼な表現」と受け取っている様子はない。しかし、「恩恵関係」や「内容」の不適切性に関しては、「失礼である」「押し付けがましい」などと不快感を表していた。感謝の気持ちを伝えるためといても、誇張した表現は「わざとらしい」と受け取り、依頼をする場合、いくら丁寧な言葉使いをしてもこちらの都合ばかりを言ったり相手の行動の詳細を指示したりしたものには「あつかましい」と感情的反発を示した。

韓国人学習者は、このようなことが殆ど認識できておらず、殆ど相手との上下関係にのみ着目して丁寧さの適切性を判断している。修正例からも、「送っていただいた」が適切なのに「お送りになった」のように上下関係のみに着目し恩恵関係を見落とししたり、相手の行動を詳しく指示したりする例に関しても「です」を「でございます」、「します」を「いたします」に修正するなど、言語行動を全体的にとらえて吟味するのではなく文末表現及び用言の丁寧さなど局所に着目している。

5. おわりに

今回の調査の結果、学習者は敬意表現について「上下関係の適切な表示」「語彙形式の適切な選択」という要因はある程度認識して

いるが、「恩恵の関係の表示」「適切な態度・行動」についての認識は非常に低いということが分かった。学習者の認識していない要因に起因する不適切さは感情的反発をまねきやすいことも観察された。

現在までの韓国での敬意表現に関する日本語教育は、主に形式学習に重点がおかれていて、その背後にある日韓の考え方の違いを十分に認識させるようなことは行われなかった。今後は韓日の考え方やことばの用い方の相違についての分析も進めると共に、効果的な教授法を開発することが必要である。学習者のおかしがちな誤りを集めて今回調査に用いたような訂正タスクにまとめれば、教材として利用できると思う。

〈 参考文献 〉

- 荒巻朋子「授受文形成能力と場面判断能力の関係－質問紙調査による授受表現の誤用分析から－」『日本語教育117号』日本語教育学会 2003. 4 pp. 43～52
- 因京子・市丸恭子「作文訂正に見る学習者の自己訂正意識－自律的習得を促進する教授法考案のための基礎研究－」『九州大学留学生センター紀要 第6号』1994 pp. 57～76
- 因京子「おVするの文法」『日本語教育：異文化の懸け橋－三浦昭先生古希記念論文集』アルク 1997. 2 pp. 117～129
- 因京子a「留学生のためのちよつと気の張る手紙の書き方」『ピーエフエスアール2002. 7』
- 因京子b「研究留学生を対象とする社会生活機能教育教材－専門日本語教育と並ぶもう一つの課題－」『韓日言語文化研究』韓日言語文化研究会 2002. 12 pp. 73～93
- 林四郎、南不二男編『敬語講座⑥現代敬語』明治書院 1973
- 秦秀美「日・韓における感謝の言語表現ストラテジーの一考察」『日本語教育114号』日本語教育学会 2002. 7 pp. 70～79
- 川口義一「日本語の待遇表現」『中央大学日本研究 14』1999. 2 pp. 291～308
- 森下喜一、池景来『日本語と韓国語の敬語』白帝社 1991
- 守屋美佐子「韓国人大学生に対する待遇表現指導について」『慶州大学校 論文集 13輯』2000. 2 pp. 223～234
- 仲山耕輔「日本語の待遇表現の教育についての考察－韓国人中上級学習者の事例研究を中心として－」『高大日本語教育研究 4』高麗大学校 教育大学院同門 日本語教育研究会 2000. 12 pp. 60～69 (原文韓国語)
- 小川治子「感謝とわびの定式表現－母語話者の使用実態の調査からの分析」『日本語教育 85号』日本語教育学会 1995. 3 pp. 38～52

- 生越まりこ「謝罪表現の対照研究－日朝対照研究－」『日本語学』明治書院 1993. 11 pp. 29～38
- 生越まりこ「感謝表現の対照研究－日朝対照研究－」『日本語学』明治書院 1994. 7 pp. 19～27
- 生越まりこ「依頼表現の対照研究－日朝対照研究－」『日本語学』明治書院1995. 10 pp. 50～60
- 白聖善「日本語における待遇表現」『東萊女子専門大学論文集 第15輯』1996. 11 pp. 123～144
- 梅田博之 「朝鮮語の敬語」『敬語講座⑧世界の敬語 第8巻』明治書院1974 pp. 43～68
- J. V. ネウストプニー「世界の敬語」『敬語講座⑧世界の敬語 第8巻』明治書院1974 pp. 7～42

資料1 調査項目の一覧表

1. 敬意表現の不適切な例の一覧表

	項目番号	項目位置	項目内容	不適切性の内容	修正例 (修正方法)
i 上下関係	①	3(2)B	(私があなたの家 に) いらっしゃる	自分の行動に尊敬表現を用いている	いる
	②	1(3)A	(母が) おっしゃいました	身内の行動に尊敬表現を用いている	言いました 申しました
	③	3(2)A	(上の相手が) くれて	相手の行動、相手に関わ る対象に敬意を示してない	くださって いただいて
	④	3(3)A	(目上の相手に) 今 度は韓国に <u>きません</u> か		いらっしゃいません か
	⑤	3(4)A	(目上の相手の) 家 族		ご家族
ii 恩恵関係	⑥	1(2)B	(相手が書いて送っ てくれた論文を) <u>お</u> <u>読みいたしました</u>	目上の人から恩恵を受け ているが、上下のみを表示 して、恩恵を表示していな	読ませていただき ました
	⑦	3(5)C	(私が送ったマンガ を相手が) 暇なとき にお読みになれば (私は) 光栄です	い	読んでいただけれ ば
	⑧	3(5)A	一語に撮った写真を <u>送ってあげます</u>	「てあげる」の使用によ り、自分の恩恵を明示して いる	お送りいたします
	⑨	1(2)A	(相手が私に) <u>送っ</u> <u>た</u>	相手の行動が恩恵に自分 にとって恩恵であるのに、 相手の恩恵を表現してい ない	送ってくださった 送っていただいた
	⑩	3(5)B	前におっしゃった小 説 <u>お読みしました</u> 。	自分の行動が相手に対す る恩恵と結びついていない のに、謙譲表現の過用に よって恩恵を含意する	読みました

iii 内容	⑪	3(2)C	おいしかったので、 今も食べたいのを やっと我慢しており ます	感謝の気持ちを直接使わ ず、感情表現を用いている ・過度な感情表現で相手 に負担をかける恐れがある ・感謝の気持ちが分かり にくい	おいしかったので、 日本の料理が好き になりました
	⑫	2(3)	遅良く度はホーム ステイの家庭があり まして、本当に嬉しく 思います。		今回ホームステイを させて頂ける家庭 が見つかりまして、 本当に嬉しく思っ ます
	⑬	1(1)	時下、益々ご清祥の こととお喜び申し上 げます	内容とのかしこまり度が合 わない	お元気ですか
	⑭	2(4)	私は7月から夏休 みなので、7月の10 日から17日までお世 話になりたいと思っ ます。その他の日 は、MTやクラブ活動 がありまして無理で す	相手の都合に対する配慮 の欠如している ・「無理」という断定の程 度が強い語彙を含んでい る例	私は7月から夏休 みなので、できまし たら、7月の10日か ら17日までお世話 になりたいと思っ ます。ご都合はいか がでしょうか
	⑮	2(5)	6月21日から7月5 日までは調査旅行を 計?しておりますの で、6月20日までに 届くようお願いいたし ます。	・断定の程度が強い語彙 は含んでおらず、丁寧な言 葉使いを用いているが、相 手の行動の詳細を指示し ている	6月21日から7月 5日までは調査旅 行を計?してござい ますので、6月20日 までにお返事頂けれ ば幸いです。

iv 慣用句 ・ 定型 表現	⑯	2(1)A	感謝差し上げます	日・韓同一意味で共通の 中心語彙を使用する定型 表現の不適切な例	感謝いたします
	⑰	3(2)D	真心で感謝いたし ます		心より感謝いたします
	⑱	1(2)C	手伝いになりました	日・韓同一意味で異なる 中心語彙を使用する定型 表現の不適切な例	勉強になりました、役 に立ちました、助かり ました
	⑲	3(4)B	では、この辺で減 らします	手紙文における韓国語の 定型表現の直?による不 適切な例	では、この辺で失礼 いたします
	㉔	3(1)	若葉の候、益々お 元気なのは何より だとお喜びします	手紙文における日本語の 定型表現に不適切な表現 を含む例	若葉の候、益々ご清 祥のこととお喜び申し 上げます
計	20				

2. 文法事項の不適切な例の一覧表

	項目 番号	項目 位置	項目内容	不適切性の 内容	修正例
語彙 選択	①	1(3) c	のりが <u>いる</u>	「いる」「あ る」の区別	ある
	②	3(2) b	一週日	不適切な語 彙選択	一週間
	③	3(2) c	(相手が私に)作ってあげた日本の家庭 料理		くれた
	④	3(5) a	私のことを思い出していただければ嬉しく 存じます	自・他動詞 の区別	思い出して
	⑤	2(5) a	もし、それ以降になれば、011-538- 0438にお電話お願い申し上げます。私 の携帯電話の番号です。	仮定形の区 別	なるのでした ら

格助詞	⑤	1(2)a	修士論文が送ってくださり	格助詞の不適切な選択	を
	⑦	3(2)a	(私は) 皆さんと一緒に過ごすことができ		と
	⑧	3(2) d	公園で 出かけた		に
	⑨	3(3) a	テストは終わったら夏休み		が
	⑩	3(3) b	皆-を 会いたい		に
用言活用形式	⑪	1(3)a	お菓子もおいしいいただきました	形容詞の中止形	おいしく
	⑫	1(3) b	あまりにもきれく く ていただくのがもったいない	形容動詞の終止形	きれいで
	⑬	1(3) d	おいします	形容詞の丁寧形	おいします
	⑭	3(2)e	楽しいだった	形容詞の過去形	楽しかった
計	14				

資料2 調査の手紙文

手紙 1

日本に一年間滞在していた時に知り合いになった日本人の先輩から、先輩の論文のコピーとお菓子を送ってもらった。それに対する礼状を兼ね、キムチとのりを送る。韓国語で提示

鈴木和子様

(1) 時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます ii

(2) 先日はお書きになった修士論文 ~~が~~送ってくださりありがとうございます。

A送った iv 論文は全部 Bお読みいたしました iv。私の論文のテーマにぴったりで、本当に C手伝いになりました i。

(3) 送っていただいたお菓子も、家族皆でおいしくいただきました。父も母もあまりにもおきれくいただくのがもったいないとおっしゃいました。iii日頃のご親切へのお礼と言えるほどのものでもないのですが、昨日キムチを作りましたので、キムチとのりをお送りいたします。最近では日本にもキムチや韓国ののりがあるようですが、今の時期のキムチとのりは特においいませ。キムチは母の手作りで、のりは家族のお勧めの品です。口に合うかどうか分かりませんが、召し上がってください。

(4) 末筆ながら、ご家族みなさまでよいお年をお迎えになりますようお祈り申し上げます。

12月 26日

李 民 佳

※ ここに提示している下線、数字及び英文字等の記号は、調査項目の位置を提示するためのものであり、実際の調査時には提示していない。実際の調査時には漢字のルビを振っているが、ここでは便宜上、漢字のルビは省略している。

手紙 2

日本でホームステイがしたいと思い、福岡の国際交流課に申し込んでいた。国際交流課から、連絡があって、受入の家庭を紹介された。日程などの詳しいことを相談するために、受入先に初めて手紙を出す。韓国語で提示

鈴木良子さま

(1) はじめまして。福岡の国際交流課を通してホームステイを申し込んでいた朴民太です。今回私のホームステイの件では、心よ

りA感謝差し上げます i。

(2) 私は韓国のK大学で日本語を勉強していきまして、今まで二度、日本の旅行をしたことはありますが、日本の家庭での生活を体験したことはありません。いつかは日本の家庭を体験したいと思って、前々から福岡の国際交流課にホームステイの申し込みをしておりました。

(3) 運良く今度はホームステイの家庭がありまして、本当に嬉しく思います ii。

(4) 私は7月から夏休みなので、7月の10日から17日までお世話になりたいと思います。その他の日は、MTやクラブ活動がありまして無理です ii。

なお、日本に行ったことはございますが、福岡は初めてですので、お宅まで行ける自信がありません。申し訳ございませんが、お宅まで行く方法をお教えていただけないでしょうか。お手数をおかけして申し訳ございません。どうぞよろしく願いいたします。

(5) お返事お待ちしております。6月21日から7月5日までは調査旅行を計画しておりますので、6月20日までに届くようお願いいたします。iiもし、それ以降に連絡が来れば、011-538-0438にお電話お願い申し上げます。私の携帯電話の番号です。

(6) では、お目にかかれる日を楽しみにしております。

6月 4日

朴 民 太

日本で一週間ホームステイをした。韓国に帰ってきて、礼状を出す。いつか韓国にも来たいと言っていたことを思い出した。もうすぐ、夏休みになるので、韓国に来てほしいと考えている。なお、写真と韓国語版のマンガ『キャンディ・キャンディ』を同封する。 韓国語で提示

鈴木良子様

(1) 若葉の候、益々元気にお元気なのは何よりだとお喜びします。i

(2) この度は、大変お世話になり、誠にありがとうございました。皆さん皆様一緒に過ごすことができ、本当に楽しい日 週末でした。親切にしてAくれてiii、まるで我が家にBいらっしやる iiiような気分でした。鈴木さんが作っておあげた日本の家庭料理が本当にCおいしかったので、今も食べたいのをやっと我慢しております ii。長崎へのドライブも、皆でお弁当を作って公園 で出かけたことも、神社に行っておみくじを引いてお祈りをしたことも、何もかも忘れられません。今日も写真を見ながら、楽しい だった日々を思い出しました。いい思い出を作ってくださったこと、D真心で i感謝いたします。

(3) 今から期末テストで、忙しい日が続きますが、新たな気持ちで一生懸命やろうと思っています。期末テスト終わったら夏休みなので、今度は韓国にA来ませんか iii。ご案内いたします。母は、親切にいただいた鈴木さんやご家族の皆様にお礼を申し上げたいと、妹もぜひ皆様をお会いしたいと申しています。ぜひ我が家にお越しくださいませようお願い申し上げます。お目にかかる日を楽しみにお待ちしております。

(4) A家族iiの皆様どうぞよろしくお伝えください。Bでは、この辺で減らしますii。

6月10日

李民佳

追伸

(5) 一緒に撮った写真と韓国語版『キャンディ・キャンディ』をA送ってあげますiv。写真をご覧になって私のことを思い思い出いただければ嬉しく存じます。「キャンディ・キャンディ」は暇なときBお読みになれば光栄です。ところで、鈴木さんが前におっしゃった官沢賢治の小説Cお読みしました。面白かったです。また、漫画や小説のこと、お話したいですね。

Korean speaking learners understanding of polite expressions in Japanese

CHINAMI Kyoko

KIM Seohyun

Kyushu University

Korean speakers are generally believed to be good learners of Japanese, but they can make rather serious mistakes in politeness-related expressions even at an advanced stage. This seems to be due to faults in understanding the nature of Japanese politeness, rather than to poor control of language.

This paper looks into fifty-four Korean university students' ability to recognize different types of politeness-related inappropriateness through the tasks of judgment and correction, and compared the results with the performance of the control group which consists of forty Japanese university students of approximately the same age.

It has been found that the Korean speakers are very sensitive to the marking of difference of social positions, but they pay little or no attention to the marking of benefits. Also, they tend to modify the level or formality of the predicate without changing the content of the message in order to enhance acceptability. Generally, the Korean students seem to be unaware about the differences between Japanese and Korean and make judgments based on the Korean values.

It is shown that the teaching of honorific language and other politeness-related expressions must not focus merely on the control of forms, but incorporate task-based trainings which

h elucidate the differences in cultural values and social behaviors.